

| | |
|-------|--|
| 分野 | 教育学、心理学 |
| 研究テーマ | 学生の教師としての成長 幼児期の子どもの遊び |
| キーワード | 教育・保育実習、ワークショップ企画・運営、 自然体験、泥団子作り |
| 所属学会等 | 日本教師教育学会 日本教師学学会、日本保育者養成教育学会 日本教育心理学会、日本福祉心理学会 |
| 特記事項 | 自然体験活動指導者 小学校教員専修免許状 |



URL : <http://er.nisikyu-u.ac.jp/DYU0160?ri=70>

【 光れ！泥だんご -ワークショップによる子どもの体験活動の創出- 】

学生たちが保育の専門性を生かして、地域の親子を対象としたワークショップを開催しています。テーマは、子どもたちが大好きな泥団子遊び。そこに、日本伝統の左官の技術を盛り込み、カラフルでぴかぴか光る美しい泥団子（以下、アート泥団子）を作ります。アート泥団子作りの面白さや魅力を発信するとともに、地域の子どもの体験・交流活動を豊かにすることを目指して活動しています。

●はじめたきっかけは何ですか：土の色じゃ、つまらない！

最初は、学生たちと園庭の土で、まん丸でピカピカ光る泥団子を作っていました。でも、上手に作れるようになると、「土の色じゃ、つまらない！」「好きな色をつけられないかな？」と思うようになり、学生たちと2年間かけて、アート泥団子の作り方を開発しました。

●どんなことがわかりましたか：子どもも大人もみんな夢中！

これまでワークショップを8回開催し、延べ68組の親子（157名）が参加してくれました。アンケート結果や活動中の姿から、アート泥団子作りは、子どもも大人も夢中にさせる魅力があることがわかりました。子どもも大人も分け隔てなく、おしゃべりしながら、見せあいっこしながら、泥団子作りを共通テーマとして、地域や世代を越えた交流の広がりが生まれました。

●今後の目標は何ですか：佐賀県内20市町で開催したい！

アート泥団子の普及、子どもたちの体験・交流活動を活性化するため、県内20市町でワークショップを開催したいと学生たちと話しています。

サガテレビ
ニュース
動画へ



【 研究活動の紹介 】

子どもたちの大好きな遊び「泥団子作り」をテーマに学生たちと活動を継続しています。2019年から始めたので、今年で6年目を迎えます。これまで、泥団子作りの教育効果の探求、制作技法の開発と習得、泥団子映像の提供、ワークショップの開催などをおこなってきました。以下では、制作技法の開発プロセスと学生たちの活動の様子を紹介します。

●制作技法の開発と習得：泥団子への着色を考える



写真1 園庭の土で作った泥団子



写真2 表面に絵具で着色



写真3 アート泥団子(漆喰使用)

一般的に知られている「光る泥団子」（写真1）。泥団子の表面は、コーティング加工されたような艶があり滑らかになっています。そのため、絵具やポスターカラー、マジックなどを使用して、着色することも可能です（写真2）。

泥団子への着色は、完成後に表面に色を塗る方法のほかに、色土を使用する方法があります。ただ、市販の色土は高価ですし、絵具など使用して自作の色土を作るのはかなり手間がかかります。

そこで、左官の技術を参考に、比較的安価で、手軽にさまざまな色を調合できることから、漆喰クリームに絵具を混ぜる方法を採用しました。そして、2年間の試行錯誤の末、「アート泥団子」（写真3）の制作方法を開発しました。

●学生たちの活動の様子：泥団子に向き合う日々

それぞれの「問い（より丸く・硬くしたい、表面を滑らかにしたい、思いどおりの色にしたいなど）」を持ち、その実現に向けて、試行錯誤しながら「探究」していく「学び」を実践しています（写真4）。

次第に泥団子作りへのめり込み、理想の泥団子を追求していく姿が印象的です。気がつくと、どの学生も泥団子名人になっています。



写真4 砂場で泥団子作り始める学生

【 高校生のみなさんへ メッセージ 】

日本の保育では、遊びをととても大切にします。遊びの過程や結果として、①身体・運動の発達、②知的な発達、③情緒的な発達、④社会的な発達、⑤自己肯定感や自分らしさといった、人間のさまざまな側面の発達を促すからです。

いったい遊びの中のどのような経験が発達につながるのでしょうか。友達を誘って公園に出かけ、子どもの頃に戻って、泥団子作りをしてみましよう。きっと、その答えが見つかると思いますよ。

泥団子作りの動画をチェック

